（時事新報）
番地　社
東京　明治十七年七月十七日　木曜日　第七百十三號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○宮内省達乙第五號　華族一般

華族席順ハ爵ヲ以テ定ム爵同キ者ハ位階ヲ以テ定ム

右相達候事

明治十七年七月十五日　宮内卿　伊藤博文

○宮内省達乙第六號　麝香間祗候華族

麝香間祗候無爵者ハ特ニ其戸主ノ爵ニ均シキ禮遇ヲ享ケシム

右相達候事

明治十七年七月十五日　宮内卿　伊藤博文

敍任

○明治十七年七月十五日

任長崎縣收税長　長崎縣一等屬　小倉左文

任東京商業學校長　矢野次郎

時事新報

紙幣交換ノ機止ニ熟セリ

不換紙幣ノ害毒ハ一國ノ商賣ヲ殄滅スルニ足ルモノナリ物品ノ交換ハ總テ貨幣ヲ標準トス此標準ニシテ一日幾回ノ伸縮ヲ爲シテハ迚モ正當ノ商賣ヲ營ムベキ様ナシ世人皆コレヲ知ラザルニアラズ世ノ政府モ亦皆コレヲ知ラザルニアラズト雖ヒ一旦事ノ急ニ臨ミテ不換紙幣ヲ發行シ次ニコレヲ交換シテ其害毒ノ蔓延ヲ防カントスルノ時ニ至リ必ズ又此事ヲ成スニ必要ノ金員ニ差支ユル等ノ事情ヨリシテ日一日遷延躊躇シ遂ニ悪ハヌ罪ヲ作リテ竊カニ悔ル者滔々タル天下皆然ラザルハナシ我日本ノ不換紙幣ハ明治十年西南ノ戰後ヨリ漸ク其働ヲ逞クシ爾後六七年間全國物價ノ動揺、産業ノ盛衰ハ滄海桑田ノ變モ啻ナラザルモノアリテ農工商社會ノ迷惑一方ナラズ今日モ尚ホ其呻吟ノ聲ヲ絶タズシテ悲哀ノ餘音遠ク四境ニ反響セリ一タビ此聲ヲ聞ク者ハ假令經濟ノ理ヲ解セザルノ人ニテモ必ズヤ其腸ヲ九回セシムルナラン我政府ニテモ疾ク不換紙幣ノ弊害ヲ察シコレヲ救止スルノ道ヲ講シテ怠ルヿナク先ヅ其手始トシテ年々漸次ニ紙幣ノ流通額ヲ減シ又交換準備ノ正金ヲ貯蓄スル等用意ノ在ル所明ニ知ルベシ我輩ハ嘗テ外國債ヲ起シテ紙幣ヲ交換スルノ甚タ便益ナル所以ヲ論シタルヿアレヒ言輙スク行ハレズ今日仍ホ依然トシテ不換紙幣ノ混濁海中ニ彷徨シツヽアルハ實ニ慨歎ノ至ニ堪エザルナリ然ルニ我輩ハ又今日ヲ以テ紙幣交換ノ最好時節ナリト信スル所アルヲ以テ更ニ又我政府ニ勸告シ來年ヲ待タズ今月今日ヨリ斷然意ヲ決シテ紙幣交換ノ業ニ着手センヿヲ欲スルナリ

目下紙幣交換ヲ催促スルノ事情其大ナルモノ四アリ曰ク正貨ト紙幣トノ價ヲ比較シテ其差異甚ダ少ナキナリ曰ク紙幣ノ流通額甚ダ少ナキナリ曰ク外國貿易ハ輸出ノ金額輸入ノ金額ニ超過シツヽアルナリ曰ク交換準備ノ金額既ニ十分ノ高ニ達シタルナリ我輩ハ以上四ケ條ノ紙幣交換ニ便利ナル所以ヲ左ニ略説スベシ

不換紙幣ヲ過剩ニ發行シ價格大ニ下落シタル其當時ノ深クシテ大ナルハ固ヨリ論ヲ俟タズト雖ヒ正貨ト紙幣トノ價格ニ非常ノ差違アル時ニ當リテ突然紙幣ヲ交換スルヿアレハ其激動ノ大ナル峻烈ナルガタメ一時全國ノ商賣ヲ停止スル程ノ影響ナキヲ期スベカラズ斯ノ如キハ則チ一害ヲ除キテ一害ヲ遺スノ恐アルガ故ニ熟考ノ上ニモ熟考ヲ重ネ十分明白ニ利害ノ在ル所ヲ認メタル上ナラデハ敢テ俄カニ手ヲ下スベカラザル理由モアラン然ルニ目下ノ如ク正貨ト紙幣トノ差違一圓ニ付僅カニ四五錢ノ間ヲ上下シ動モスレバ正紙平價ニ立タントスルノ勢アル時節ニ在テハ突然今日ヨリ正紙同價ノ世ノ中ト爲リタリトテ商賣社會ニ向テ一小波動ヲモ起スニ足ラズ依然トシテ天下泰平ナルベシ殊ニ正紙ノ價格間ニ差違ノ少ナキハ世間正貨ヲ所要スルヿノ少ナキ兆候ニシテ紙幣交換ノ布告ト共ニ紙幣ヲ所持スル者交換所ニ蝟集シ忽チニシテ折角ノ準備金ヲ奪去リ尽スノ恐ナキヲ指示スルモノナリ

外國貿易輸出入金額ノ差違ハ大ニ紙幣交換ノ事ニ關係アリ若シ輸出金額少ナクシテ輸入金額多ク年々若干ノ正金ヲ輸出シテ其差ヲ補フガ如キ時節ナランニハ商賣社會ニ正金ノ入用多ク紙幣ヲ正金ニ交換シテ外國ニ輸出スルノ要アリト雖ヒ目下我貿易ノ實況ハ輸出多クシテ輸入少ナク明治十五年ハ輸出ノ輸入ニ超過スルヿ八百萬圓明治十六年ハ同七百七十萬圓ナリシニ本年モ亦必ズ同様ノ結果ヲ見ルベキ傾向アリ而シテ我日本ガ貿易川ノ外ニ一ケ年間海外ニテ仕拂ヲ要スル金額ハ外國債元利償還ノタメニ百十萬圓公使領事館費ニ六十萬圓此外ニ軍艦購入費、官吏出張費、學生留學費等ヲ十分ニ見積ルモ迚モ七八百萬ノ巨額ニ達スベキ様ナク到底幾分ノ殘額ヲ正金ニテ日本ニ輸入シ來ルベキ勘定ナルベシ金銀貨濫入ノ潮先キニ向テ紙幣交換ノ業ヲ始ム事甚タ容易ナリト云ハザルヲ得ズ

目下紙幣ノ流通額ハ一億圓ニ足ラズ而シテ此中ニ就キ政府ノ庫中ニ埋伏シテ流通ノ用ヲ爲サヾルモノモ甚タ多カルベケレバ實際民間ノ流通額ヲ調査セバ案外ニ小額ナラン流通額多カラザレバ交換準備ノ正金モコレニ準シテ多額ヲ要セザルガ故ニ其事ヲ成ス甚タ容易ナリト云フベシ

最後ノ問題タル我政府ノ所有スル交換準備ノ正金ハ目下果シテ何千萬圓ニ達シアルヤ固ヨリ我輩ノ知ル所ニアラズト雖ヒ風説ニ依レバ金銀貨ニテ三千萬圓位ノ貯藏ハアラントト云ヒ又一説ニハ過般來我大藏省ハ其所有スル公債證書ヲ漸次ニ賣拂ヒ其金額ハ既ニ三千萬圓ニモ達シタルナラント商人等ノ鑑定ナリト云ヘリ此金額ガ紙幣ノマヽニテ大藏省ニ在ラバ民間ノ紙幣流通額ハ三十萬圓丈ケ更ニ減少シ居ルナルベク若シ此金員ニテ正金ヲ買入レタルナランニハ此金額丈ケ更ニ交換準備金ノ高ヲ増加シタルヿナラン故ニ其紙幣タルト正金タルトヲ問ハズ其用ヲ爲スノ點ニ於テハ兩者共ニ大抵相同シカルベシ但シ此等ノ事共固ヨリ其虚實如何ヲ知ルニ由ナシト雖ヒ假ニ此等ノ風説ヲシテ幾分カ信ヲ措クベキモノトスレバ紙幣交換ノ準備金ハ旣ニ十分ノ額ニ達シタルモノト云フヲ得ベキカ

以上列記スル如ク目下我理財上ノ事情ヲ考察スルニ悉ク皆紙幣交換ノ事ヲ始ムルニ便ナラザルモノナシ依テ我輩ハ切ニ我政府ニ勸告ス紙幣交換ハ來年ヲ待テ始ムルヲ要セズ明治十七年ノ今月今日一片ノ布告發行ト共ニ直チニコレニ着手シ決シテ猶豫遲疑スルヿ勿レト我日本國ノ紙幣交換ハ實ニ今ノ時ヲ以テ然リトスルナリ

電報

○七月五日龍動發　佛國首相フエリー氏ハ内閣に於て郎松の一役ハ清國は總理衙門にても既に同政府が支那兵を指使して事を起さしめたることを認めたり、其故は支那政府が速に東京に屯駐する兵を引擧けず三ケ月の後條約確定の後を待つて之を引擧けんとするハ早くより戰爭の用意を爲したるものあればなりと述べたり

雜報

○天機伺　明後十九日は土用入に付皇族大臣參議の方々には當日午前十時宮中へ參内して天機を伺ひ又各省勅奏任官及ひ有位華族幷に本邦駐在の各國公使等は全日より三日の内各赤坂假皇居へ參内して天機を伺ふ等ある由

○新華族類別調　宮内省華族局にては今度新に華族に列せられたる方々へ至急類別の届出ある可き様達せられたるに右の内山縣、山田二參議の類別は神別第四十類（大江朝臣）にて天穗日命の後胤從三位晋八の裔舊藩主毛利公と同類なりと

○共和紀年祭　永田町なる佛國公使館にては去る十四日夜會を催す由嘗て本紙上に記載せしが同日は同國共和紀年祭日なるを以て公使サンキウィッ氏は有栖川二品親王を始め大臣參議の方々幷に本邦駐劄の各外國公使等を招待して盛大なる夜會を催し宴酣にして有栖川殿下には左の祝詞を述べらる

余ガ今宵此盛宴ニ臨ミ倶ニ貴國人民建國ノ佳節ヲ祝スルヲ得ルハ歡忻自カラ措ク能ハズ余ハ技藝學術通商ノ事ニ至テ貴國ノ夙ニ歐洲ニ超絶スルヲ景仰ス余ハ茲ニ大統領閣下ノ健康ヲ祝シ貴國人民ノ隆昌益々加ハリ貴我兩國間ノ交誼愈親密ニシテ萬歳無窮ナランヿヲ頌シ併セテ閣下一身ノ清祥ヲ祈リ聊カ蕪辞ヲ述ブ

右終りて同公使も佛語を以て答辭を陳ぶ其間彼我の通辨と同公使館譯官トートルメル氏之を勤む其譯文は左の如し

有栖川殿下、茲ニ我ガ佛國共和大統領幷ニ我國民ニ對シ其最モ懇切ナル親愛ノ情ヲ表セラレタリ是レ余ガ深ク感謝セザルヲ得ザル所ナリ殿下ハ又日佛兩國間ニ存立セル交誼ノ如何ヲ陳ラレ常ニ親和ノ精神ヲ固ウシ以テ倍々其暢伸センヿ更ニ疑ヲ容レザルナリ今茲ニ日本帝國ノ隆盛ヲ祈リ謹デ　皇帝皇后兩陛下ノ万歳ヲ祝シ併テ皇族各位ノ健康ヲ祈リ及ヒ茲ニ臨會セラレタル各國公使ニ對シテハ其主君ノ聖壽萬歳ヲ謹賀ス

夫れより後園の芝原にて清歌昭舞を催し其間樂隊ハ音樂を奏し各見分れ歡を盡し散會せられしハ夜既に十二時の頃なりしと

○岩村議官
として一昨
○撿査院長出
阪、長崎三税
れたり
○滋賀縣令
官ハ事務引渡
○歸任　先
日歸任したれ
○ナエルナ
三好中將と同
上に同氏が驗
溝に陷入り尚
ゐは誤聞にて
馬車よして國
○判士長任期
しが今度其期
○官廳案報
付宮城縣下へ
同服部五十二
り○一等驛遞
申付られ、農
登錄所長兼調
校長矢野治郎
月俸七十圓下
れ一昨十五日
たり
○池原日南翁
れ長崎縣人に
り書を學び傍
りしが俄よ病
へたるは惜む
たるは生前の
しタ殊に文人
○米國共和黨
府よく大會を
又イリノイス州
由は既に記載
當時紐育州の
領れ候補に前の
ス氏を副統領
高きはナルブ
し故之ふ次て
は氏れ此撰に
べしと云ふ氏が
二年（明治十五